

令和5年度 第3回 函館市高齢者計画策定推進委員会 会議概要

■ 日 時

令和5年11月24日（金） 18時30分～20時10分

■ 場 所

市役所本庁舎8階大会議室

■ 議 事

- (1) 現計画の進捗状況について
- (2) 次期計画における施策の体系および展開について
- (3) 介護保険サービス等利用量の実績と見込みについて

■ 配付資料

- 資料1-1 現計画の進捗状況
- 資料1-2 地域包括ケア「見える化」システムを活用した本市の現状について
- 資料1-3 成果指標に関する施策の現時点の状況等
- 資料2-1 次期計画における施策の体系および展開
- 資料2-2 施策の展開－基本方針Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 資料3 介護保険サービス等の利用量の実績と見込み

■ 出席委員（11名）

池田委員，内山委員，大住委員，大槻委員，大日向委員，小倉委員，久保田委員，齋藤委員，鈴木委員，能川委員，山田委員

■ 欠席委員（4名）

朝倉委員，北村委員，三田委員，常野委員

■ 傍 聴 0名

■ 報道機関 0社

■ 事務局職員

保健福祉部

地域包括ケア推進課 小棚木課長，石岡主査，畠山主査，田畑主事

介護保険課 佐藤課長

高齢福祉課 黒田課長，堀田主査，萬矢主査

■ 会議録（要旨）

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

（当日配布資料について）

※説明要旨

- ・ 第2回会議で、確認後にお答えすることとしていた2点について、当日資料として配布している。1点目は、齋藤委員からの「介護のために仕事を辞めた家族・親族がいない割合」の全国平均について、2点目は、小倉委員からの「家族と地域、どちらとも交流がない人」の割合についてとなっている。
- ・ また、「家族みんなの笑顔のために」リーフレットと「知ってあんしん認知症ガイドブック」について配布させていただいた。第2回会議で能川委員、朝倉委員からお話をいただいた件に関する市の取り組みについて情報提供させていただきたい。
- ・ 能川委員からは、認知症をいろいろな人に聞かないで確認したい方が多いとの情報をいただいた件に関する事業として、リーフレットのあたまの健康チェックがある。コールセンターに電話し質問形式のテストを行いチェックを行うというものである。
- ・ 朝倉委員からは、認知症に対する理解がまだ足りないと感じるとのお話をいただいたが、認知症が疑われる時には、配布のガイドブックで手続き等のひとつおりの流れが分かるようになっており、市の窓口・地域包括支援センターのほか、病院や診療所、薬局やドラッグストアなどで配布するなど周知に努めているところである。

池田会長

それでは議事の(1)現計画の進捗状況について、事務局から説明願いたい。

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

（資料1-1「現計画の進捗状況について」）

※説明要旨

- ・ 資料1～2ページについては、各年度9月末時点で作成することとしているが、令和5年度のみ8月末時点のデータとなっている、国のデータが整い次第修正させていただくが、これまでの傾向を踏まえると、令和5年度の各実績は記載の数から微増するものと思われる。
- ・ 高齢者人口は減少傾向にあるなか、認定者の数が増加しているのは、介護ニーズが高い後期高齢者が増加しているためと考えている。
- ・ 令和4年度の介護サービス利用者数と費用の実績については、全体で見ると概ね計画どおりと考えている。計画よりも訪問系が多く使われ、通所系が少なく使われている傾向にある。
- ・ 施設サービスでは、介護医療院と介護療養型医療施設の増減が大きいですが、制度改正によって介護療養型医療施設が今年度末で廃止されることに伴い、介護医療院への転換が進んだことによるものである。
- ・ 令和5年度の見込みについても、全体では概ね計画どおり、サービス利用の傾向は令和4年度に近いものとなっている。 など

池田会長

大体計画通りに進んでいるようである。分析したデータが9月末実績・8月末実績で若干の差はあるが、計画値に対して実績値の要介護の認定者の数が減っているが、これはこれから数字が変わるのだろうか。齋藤委員、数字が低くなっている区分は何か要因があるのか。

齋藤委員

私もこれを見て疑問を感じ、事務局に質問しようと思っていた。要支援や要介護の計画値はどのような求め方をするのか。

石岡主査

計画値の見込方になるが、厚生労働省が提供している、「見える化」システムを使用し求めている。「見える化」システムの一つの機能に将来推計機能がありそれを活用し見込み数を求めている。

齋藤委員

資料1-1の1ページ目の(2)の要支援1は4.2%も数字が落ちている。また、要介護5も減っている。しかしながら要介護4は16.1%も数字が増えている。

このデータを見て考えれば、要支援の前の予防が効いていて要支援になっていない、要介護5になる前に予防が効いていて要介護5になっていないのではないかと思う。

池田会長

そのような考え方もできると思う。大日向委員はどう考えるか。

大日向委員

在宅の方は、我々が活動している中で変動があるとは感じていない。今回のデータと連動していないので、疑問に思っていた。在宅として要因は思い浮かばない。

池田会長

齋藤委員が言っていたとおり、予防が進んで数が減っているのは理由のひとつとして考えられると思う。

他に意見があればお願いしたい。

(特になし)。

計画通りに進んでいるようである。次の資料1-2の説明を事務局にお願いしたい。

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

(資料1-2「地域包括ケア「見える化」システムを活用した本市の現状について」)

※説明要旨

- ・ 当該資料は、「在宅サービス」、「居住系サービス」、「施設サービス」のサービス分類に係る、「受給率」および「要支援・要介護者一人当たり定員」の2つのデータについて、

本市と他の地域等とを比較することで、本市におけるサービス受給の傾向や、定員が受給に応じたものであるかを把握するものである。 など

池田会長

「見える化システム」は良いシステムだと思う。このことについて何かあるか。

小倉委員

2ページの説明を聞いて、本市は受給率が高いのが特徴かなと感じたが、1ページの資料と少し違う。受給率が高いが1人あたり定員は高くなく、3ページも同様となっている。この受給率と1人あたり定員の乖離が出るのはなぜか。

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

この資料の主な目的は、他の地域と比較することで函館の傾向や特徴を把握しようとするものである。乖離の要因の分析には至っていないが、各サービスの需要と供給の状況については、実施している各調査の結果により確認することとしている。

池田会長

他に質問等はあるか。

齋藤委員

このデータはコロナ禍のものとなる。2023年5月で5類に移行したが、まだ半年程度しか経っていないので、2019年のデータがあると見方が変わり、比較ができると思う。

当法人も特養、デイサービス、ヘルパーを持っているが、デイサービスの利用はかなり下がった。施設は、1階にデイサービス、2・3階に特養があるが、動線は一切重ならない。

特養でコロナが発生した場合に、デイサービスの利用者に、特養でコロナが発生した旨を伝えた上で、デイサービスを利用するか確認するが、そうすると利用控えになっていた。

デイサービスでコロナが出ていないにもかかわらず、1か月の稼働率が38%となったこともあった。特養とデイサービスを併設している所なら、併設の形態は施設により異なると思うが、コロナウイルス感染症の発生状況によってデイサービスの稼働率が結構変わったのではないか。

入所系の稼働率やヘルパーの稼働率は、それほど変動はなかったが、デイサービスの稼働率はコロナの人が1人出るだけで上下していた。よってこの資料に2019年があれば異なる見方ができたのではないかと感じた。

池田会長

5類に移行したが、現在でもデイサービスはコロナの影響は受けているのか。

齋藤委員

現在は、動線も交わっていないこともあって影響はそれほどない。デイサービス内でコロナが出てもサービスを使うことはできるが、来ない方よりも来るの方が多くなったことから、コロナでの利用控えはなくなったと思う。

池田会長

確かにフロアで導線が分かれていますれば、特養でコロナが出てもデイサービスには影響しない。

齋藤委員

平屋の多床室タイプであれば、デイサービスでコロナが出れば特養に広がる可能性は考えられるが、当法人はそのタイプではない。

池田会長

他に質問等はあるか。

(特になし)。

次の資料1-3の説明を事務局にお願いしたい。

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

(資料1-3「成果指標に関する施策の現時点の状況等」)

※説明要旨

指標1から6について、各課担当主査から説明する。

(資料1-3に基づき各担当主査が説明)

池田会長

町会等への参加割合が記載されているが、小倉委員、コロナで一時集まることは難しかったが、最近の町会、趣味サークル等への参加割合はどうか。

小倉委員

前年度まではほとんどできなかったが、今年度は大体通常どおりの運営になっている。

一部高齢者が多い行事に関し、飲食を伴うものについては、コロナ前に比べ、参加に少し抵抗があるのは感じている。気を使って色々やっていると思う。

池田会長

コロナは5類に移行したが、閉じこもり傾向の人はまだいるのか。

小倉委員

コロナの影響で、閉じこもり傾向の人が増えたとは感じている。

池田会長

そのような人たちに対し、呼びかけ等を行っているか。

小倉委員

呼びかけ等を行っているが、コロナの影響で出てこなくなった人もいる。

池田会長

社会福祉協議会はいかがか。

大槻副会長

5類になってから会議等は実施しているが、食事を伴うイベントは、社協としてできない状況である。来年の新年会も風邪が蔓延していることもあり、どうするか悩んでいる。大変な中、皆様に協力していただきながら、行事の実施に関し色々検討している。

池田会長

なぜこのような質問をしたかという点、会・グループへの参加割合の目標値59.9%に対して51.6%となっており、目標達成には、社会福祉協議会の協力などが必要になってくると思ったからである。

大体の指標は目標値を達成できそうである。

他に質問等はあるか。

(特になし)。

次の資料2-1の説明を事務局にお願いしたい。

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

(資料2-1「次期計画における施策の体系および展開」および資料2-2「施策の展開－基本方針Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」)

※説明要旨

- 資料2-1については、次期計画に新たに搭載する事業を「新規搭載」、現在の計画に掲載している事業内容に新たな内容が加えられたものを「一部新規搭載」と赤字により記載している。
- 基本施策と基本目標については、第9期計画についても引き続き継続したい。
- 前回会議では、時間の関係でご発言できなかった意見を後日いただく機会を設けさせていただいたところ、大日向委員から、南茅部地区のバスの運行本数や地域のタクシー会社の閉鎖によりタクシーが日常的に使いえなくなるなど、高齢者の足の確保が難しくなっているとのお話をいただいた。資料2-2の37ページのウにある内容が、ご意見に関連するものとなるので了承いただきたい。また、交通政策担当課と情報を共有させていただいた。 など

池田会長

質問等はあるか。

小倉委員

家族以外との交流がない方たち向けの施策はこの資料の中のどれに該当するか。

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

施策では8ページのひとり暮らし高齢者等緊急通報システム事業, 11ページの安心ボトル, 13ページの高齢者見守りネットワークなどが該当となる。

池田会長

それでは資料3の説明を事務局にお願いしたい。

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

(資料3「介護保険サービス等の利用量の実績と見込み」)

※説明要旨

- ・ 要介護・要支援認定者数, 認知症高齢者等の人数については, 介護保険サービスを利用する割合が高くなる75歳以上の方が, 増加することに伴い, 令和12年から17年にわたる期間まで増加を続けるものと予測している。
- ・ 次の計画期間における各サービス別の見込み量については, 厚生労働省の見える化システムの推計機能を利用している。傾向としては, 今期の計画期間のサービスの利用傾向の流れを踏まえ, 訪問系サービスが通所系サービスより伸びるものと見込んでいる。
- ・ なお, 国が第9期計画から導入を予定している複合型サービスについては, 詳細が判明次第見込むこととしたい。 など

池田会長

久保田委員, 市内の訪問診療に関してはどのようなになっているか。

久保田委員

最近では専門の施設も減っていることから, ニーズは多いが対応が追い付いていなく, 訪問診療は行っているが, 一人のところが多いため, 夜間や出張中のサポートが足りていない。

在宅を行う診療所への支援を市にお願いしている。

在宅を支援する組織を今年度医師会で立ち上げたので, 市とタイアップして, 隙間なく在宅の支援を行っていききたい。

池田会長

訪問診療は増加傾向にあると思う。認知症も増加傾向にあり, 認知症の行方不明者も増加している。それも課題かなと思う。

これからもこのように進めていくことになると思うが、大住委員，一般公募の委員として何か感じたこと等があればお願いしたい。

大住委員

やっこの会議のシステムが分かってきた。

なぜこのようなメンバーなのかと疑問を持っていたが，回を重ねてその理由が分かってきた。現場の意見がこのような形で吸い上げられるということが分かった。

池田会長

他に質問等はあるか。

(特になし)

それではこれで終了する。

石岡主査（地域包括ケア推進課 企画・管理担当）

それでは以上をもって，令和5年度第3回目の委員会を終了する。